

「急いでいるときこそ一呼吸 譲る気持ちで運転を」 H26年度最優秀交通安全標語

1. 交通安全キャンペーンの事業場アンケートによせられた二輪車に関する事故防止について前号ではバイクに対してご紹介しましたので、今回は自転車に対しての注意点をご紹介します。

最近のエコブームもあり、街中では通勤・通学時や趣味として、自転車に乗る人が増えてきたようです。しかし、狭い路地から自転車が急に飛び出してくるなど、危ない場面にヒヤリとした経験がある方も多いと思います。

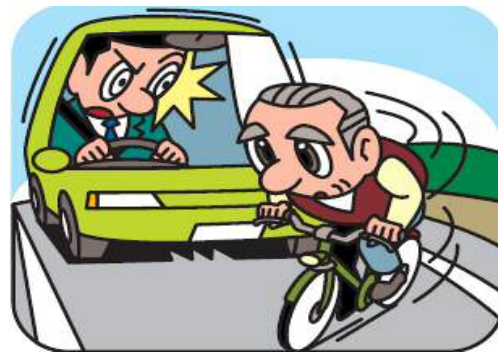
自転車もバイク同様に運転者は、衝突により衝撃を身体に直接受けるため重大事故につながりやすくなります。自転車との交通事故を回避するためには、その特性を知り、自転車の運動行動を予測して自らが積極的に事故を回避しようとする運転を心掛けることが重要です。

2. 安全運転のポイント

自転車に対する注意点

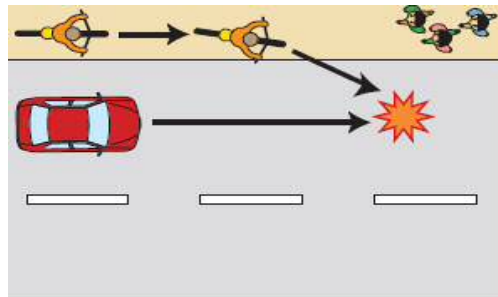
■後方の確認をせずに道路横断や進路変更

道路の左端を通行する自転車は、駐車車両などの障害物があると右側に進路を変更してくることがあります。又、障害物がない場合でも、道路の反対側に自分の行きたい場所があると、急に道路を横断してくることがあります。



■一時停止をせずに脇道から飛び出してくる

自転車を利用する人の中には交通ルールをよく理解していない人もいます。そのため一時停止の標識や標示があってもそれらに注意を払わず、安全確認をせずに飛び出してくることがあります。



■歩道から急に車道にでてくることもある

自転車は車道通行が原則ですが、実際には歩道を通行する自転車も少なくありません。歩道を通行する自転車は歩行者などにより進路を塞がれると、いきなり車道に出てくる場合があります。

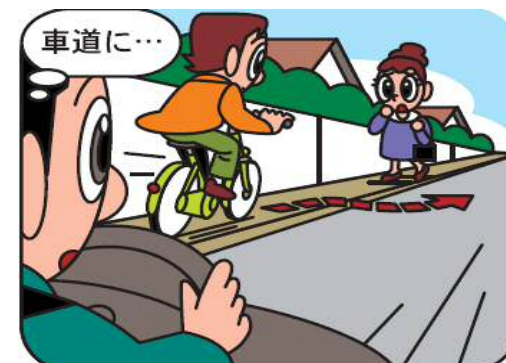
■携帯電話などを使用していて車に気付かない

携帯電話やスマートフォンなどを使用している自転車は、走行が不安定になるばかりでなく、周囲に対する注意力が低下してしまい、車の接近に気付かないことがあります。又、ヘッドフォンを使用していると周囲の音が聞こえにくい為、接近してくる車に気付くのが遅れやすくなります。



■路面の変化や風などでふらつくことがある

自転車は路面の変化や横風などによりふらつくことがあります。特に子供や高齢者の乗った自転車、カゴに多くの荷物を入れた自転車などは不安定で、ちょっとしたことでふらついたり転倒することがあります。



自転車との事故を防止するためのポイント

■進路変更や道路横断に備える

前方を自転車が走行しているときは、その先の状況に目を配り、駐車車両などの障害物があるときは自転車の進路変更を予測してスピードを落とし、先に行かせるようにしましょう。又、障害物がない場合でも、急な進路変更や道路横断があるかもしれないと考えて、自転車の挙動に十分注意しましょう。

■脇道からの飛び出しを予測する



住宅街などの脇道や十字路のある道路を走行するときは、あらかじめスピードを落とすとともに、見通しの悪い脇道や十字路に接近したときは飛び出しを予測して、ブレーキの上に足を乗せておくなど、直ぐに対応できる態勢を取っておきましょう。

又、前方の脇道から1台の自転車が出てきたら、続いて数台の自転車が出てくるかもしれないと予測し、脇道の手前で一時停止するくらいの慎重さで進行しましょう。

■歩道を通行する自転車の動きにも注意する

自転車が歩道を走行しているからといって決して油断はできません。歩道の先の状況に目を配り、歩行者などにより自転車がそのまま進行しにくい状況にあるときは、車道に出てくることを予測して、スピードを落とすとともに左側に寄り過ぎないようにしましょう。

又、歩道と車道の境目にガードレールなどが設置されている場所では、その切れ目から自転車が車道に出てくる場合がありますから、そのような場所では十分に注意しましょう。

■側方を通過するときは十分な間隔をとる

自転車の側方を通過するときは、安全な側方間隔をとる必要があります。特に子供や高齢者の乗った自転車、二人乗り、三人乗りの自転車、携帯電話やスマートフォンなどを使用している自転車などの側方を通過するときは、ふらつきなどを予測して十分な間隔をとりましょう。道路状況により、十分な間隔がとれない場合には徐行して進行しましょう。

